

国語年鑑

—1954—

国立国語研究所編

秀英出版刊

刊行のこゝば

われわれの日常生活においてことばのはたす役割の大きいことは、事新しく言うまでもない。ところが、このことばをいかに活用し、改善してゆくかについては、これまで、一部の識者学者の間でだけ論議されていた観があった。しかし近年に至っては、ことばの問題が漸く広く一般の関心の的となってきたようである。日々の新聞を一覧しただけでも、いろいろの面からことばに関する問題が取り上げられている。

われわれのことばを活用し、改善して、われわれの生活を向上させ、われわれの文化を発展させてゆくには、このような識者の意見や学者の研究とともに、一般の人々の声を結集することが大切である。国語年鑑の編集刊行を企てたのは、こういうことばに関するあらゆる意見や研究や声を記録、整理して、問題を解決し、ことばの生活を進展させる基礎材料としたいためである。

このたび刊行の運びになった昭和二十九年版は、昭和二十八年一月から十二月までの間に現れたものを集録したものである。はじめての企画だけに不十分な点が少なくないと思うが、それは年を追って改め、理想的な年鑑にしてゆきたい。

本年鑑は、国立国語研究所の所員の努力によって成ったものであるが、資料収集等に関しては、文部省国語課をはじめ各方面の御協力を得た。なお、刊行については秀英出版の協力を得た。あわせてお礼を申し上げる。

昭和二十九年四月二十日

国立国語研究所長

西尾 実